

Oral (Theme) | 生涯スポーツ研究部会：【課題A】ライフステージに応じた「スポーツの価値」とは？

⌚ Thu. Aug 28, 2025 9:20 AM - 10:00 AM JST | Thu. Aug 28, 2025 12:20 AM - 1:00 AM UTC ㊦
Room3205(Education and research building block3 2F 3205)

[2a1201-02] 生涯スポーツ研究部会【課題A】口頭発表⑤

Chair:Yosuke Hayashi

9:20 AM - 9:40 AM JST | 12:20 AM - 12:40 AM UTC

[生涯スポーツ-A-12]

総合型地域スポーツクラブの世代交代の課題（社,経,政）

人材循環と理念継承の視点から

*Ryusuke Manabe¹ (1. Shoei College of Welfare & Childcare)

9:40 AM - 10:00 AM JST | 12:40 AM - 1:00 AM UTC

[生涯スポーツ-A-13]

体育・スポーツ経営学に関する研究トピックの動向（経）

トピックモデル分析による学術論文（2000－2024年）のレビュー

*Hiroki Shibata¹, Naoki Okuda², Toshihiro Hayashida³, Hiromu Uno⁴ (1. Faculty of Sport Management, Nippon Sport Science University, 2. Department of Economics, Osaka Gakuin University, 3. Institute of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba, 4. School of Health and Sports Sciences, Mukogawa Women's University)

Oral (Theme) | 生涯スポーツ研究部会：【課題A】ライフステージに応じた「スポーツの価値」とは？

🌱 Thu. Aug 28, 2025 9:20 AM - 10:00 AM JST | Thu. Aug 28, 2025 12:20 AM - 1:00 AM UTC 🏠
Room3205(Education and research building block3 2F 3205)

[2a1201-02] 生涯スポーツ研究部会【課題A】口頭発表⑤

Chair:Yosuke Hayashi

9:20 AM - 9:40 AM JST | 12:20 AM - 12:40 AM UTC

**[生涯スポーツ-A-12] 総合型地域スポーツクラブの世代交代の課題（社,経,政）
人材循環と理念継承の視点から**

*Ryusuke Manabe¹ (1. Shoei College of Welfare & Childcare)

本研究は、総合型地域スポーツクラブの持続可能性に焦点を当てるものである。日本における総合型地域スポーツクラブは、多世代・多種目・多志向のスポーツ活動を支える地域の基盤として発展してきたが、創設期の中心的メンバーと、後から参加した世代との間に、理念や活動参加への温度差が生じつつある。また、持続可能なクラブ運営に向けて「100年続くクラブ像」を描くには、理念の継承や役割移行の仕組み構築が不可欠である。

本研究では、会員数500人を超える5つの総合型地域スポーツクラブを対象に、クラブ運営の中心を担うキーパーソンへの半構造化インタビューを実施し、世代交代に関する課題や成功事例を質的に分析する。分析の焦点は、①人材育成とリーダーシップの継承、②組織文化の共有、③継続的なモチベーションの醸成の3点に置かれる。特に、クラブが直面している「次世代へのバトンタッチ」に対する困難と、それを克服するための具体的な実践知に注目する。

本発表では、調査から得られたデータをもとに、今後のクラブ運営において人材の循環と理念の継承を両立させるための方策を提示し、地域スポーツの持続性に貢献する可能性について検討する。

Oral (Theme) | 生涯スポーツ研究部会：【課題A】ライフステージに応じた「スポーツの価値」とは？

📅 Thu. Aug 28, 2025 9:20 AM - 10:00 AM JST | Thu. Aug 28, 2025 12:20 AM - 1:00 AM UTC 📍
Room3205(Education and research building block3 2F 3205)

[2a1201-02] 生涯スポーツ研究部会【課題A】口頭発表⑤

Chair:Yosuke Hayashi

9:40 AM - 10:00 AM JST | 12:40 AM - 1:00 AM UTC

**[生涯スポーツ-A-13] 体育・スポーツ経営学に関する研究トピックの動向（経）
トピックモデル分析による学術論文（2000ー2024年）のレビュー**

*Hiroki Shibata¹, Naoki Okuda², Toshihiro Hayashida³, Hiromu Uno⁴ (1. Faculty of Sport Management, Nippon Sport Science University, 2. Department of Economics, Osaka Gakuin University, 3. Institute of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba, 4. School of Health and Sports Sciences, Mukogawa Women's University)

人々の豊かなスポーツ生活の実現を目指し、スポーツをめぐる場や機会の生産・提供・分配のあり方を考究してきた体育・スポーツ経営学研究は、学校体育組織の経営を端緒として始まり、その後、スポーツ産業に関わる実践領域の拡大とともに、対象を広げつつ研究が展開されてきた。一方で、研究対象の急速かつ無批判に拡大してきたことで、それらを整理・体系化する必要性がかねてより課題として指摘されている。また、近年では研究の国際化に伴い、国内外で蓄積されている研究成果の統合や、研究動向の差異や独自性の解明も課題となっている。しかし、体育・スポーツ経営学領域の研究においては、国内外でどのような研究トピックが蓄積されてきたのか、その全体像を把握し、そのうえで、研究動向の差異や共通点を分析することで、国内研究の位置づけや課題を明らかにする試みはこれまで十分に行われてこなかった。そこで、本研究では、2000～2024年に発表された国内外の体育・スポーツ経営学に関する研究のトピックを明らかにすることを通じ、国内研究の独自性及び今後の研究課題を考察することを目的とする。方法はトピックモデルによる推定を用いた。トピックモデルはテキストデータにおける語の出現パターンから潜在的なトピックを明らかにする分析手法である。対象となるデータは、体育・スポーツ経営学に関する国内外の総合ジャーナルに収録された学術論文（2,519編）のタイトル及びアブストラクトである。なお、分析により推定されたトピックの数や内容等については、発表時に詳述する。